

札幌市における高齢者の 買い物環境に関する意識調査結果

平成 23 年 2 月 28 日



社団法人 札幌消費者協会
調査部

健やかな暮らしを守るために

S区・バス停側の小売店が閉店して4年になります。

住民は1キロ、2キロ先まで買い物に出かけることになったため、バスや自転車を利用したり、リュックを背負っての買い物姿をよく見かけるようになりました。

北国に住む高齢者の冬の買い物行動は、居住地域によって格差が生まれており、今後消費行動の減少となる懸念もあります。

このことからその実態を知ることが必要と考え、(社)札幌消費者協会調査部が高齢者の買い物環境に関する調査を実施いたしました。

この調査結果がこれからの地域街づくりに活かされますことを願うものです。

寒さは人間を賢くする。

寒さがあるから蓄える、工夫をする、創る、鍛える。

そして人々が賢くなる。

寒さは暮らしを豊かにする。

冬があり、寒さがあるから食べ物おいしい。



社団法人 札幌消費者協会
会長 桑原 昭子

札幌市における高齢者の買い物環境に関する意識調査

[調査概要]

1.調査の目的

札幌市においても身近にあった小売店や市場が閉鎖され、スーパーや郊外型大型スーパーに変わってきている。
 このように消費者の買い物環境が急激に変化し、特に高齢者が生活する上で、不便を感じているのではないかとの視点から、アンケートを実施し、現状をどのように捉えているかを調べ、高齢者への取り組みの参考にしたい。

2.調査期間

平成 22 年 10 月下旬～12 月中旬

3.調査対象

65 歳以上の札幌市民及び札幌消費者協会会員

4.調査の方法

市内の高齢者いきいきサロン及び老人クラブに調査員が出向きアンケートに答えていただいた。また、協会員にもアンケートに協力をお願いしました。

5.アンケートの有効回答数

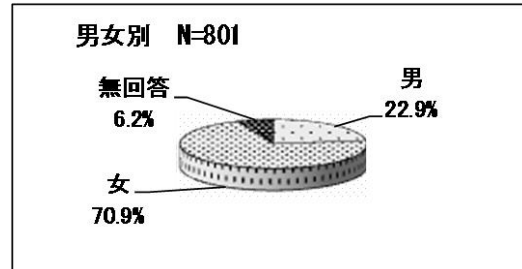
全区総数：801人

地区別有効回答数：中央区（80） 北区（61） 東区（85） 白石区（57）
 厚別区（67） 豊平区（62） 清田区（78） 南区（56）
 西区（182） 手稲区（73）

[調査結果]

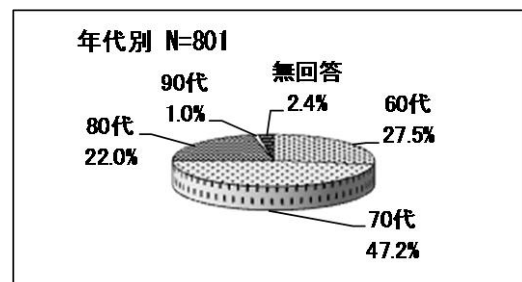
★ 有効回答属性:男女別

男	183	22.9%
女	568	70.9%
無回答	50	6.2%
合計	801	100.0%



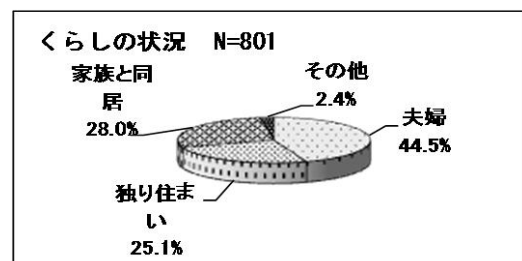
★ 有効回答属性:年代別

60代	220	27.4%
70代	378	47.2%
80代	176	22.0%
90代	8	1.0%
無回答	19	2.4%
合計	801	100.0%



★ 有効回答属性：くらしの状況（家族構成）

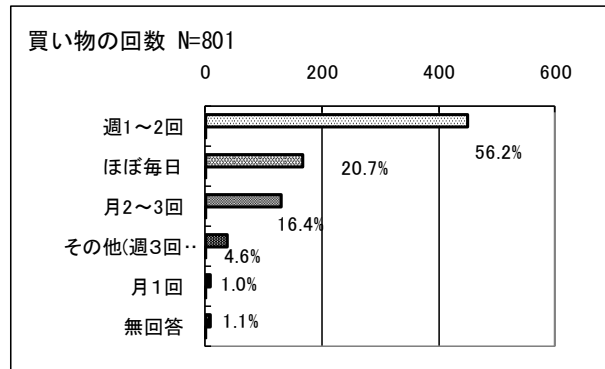
夫婦	357	44.5%
独り住まい	201	25.1%
家族と同居	224	28.0%
その他	19	2.4%
合計	801	100.0%



問1:毎月、買い物はどのくらい行きますか

[全区]

週1~2回	450	56.2%
ほぼ毎日	166	20.7%
月2~3回	131	16.4%
その他(週3回~4回)	37	4.6%
月1回	8	1.0%
無回答	9	1.1%
合計	801	100.0%



[全区:年代別]

	60代		70代		80代		90代	
週1~2回	131	59.5%	222	58.6%	86	48.9%	2	25.0
ほぼ毎日	48	21.8%	77	20.4%	37	21.0%	0	0
月2回~3回	27	12.3%	54	14.3%	41	23.3%	3	37.5%
その他(週3回~4回)	13	5.9%	17	4.5%	6	3.4%	1	12.5%
月1回	1	0.5%	4	1.1%	3	1.7%	0	0
無回答	0	0	4	1.1%	3	1.7%	2	25.0

56.2%の人が「週1回から2回」と答えている。

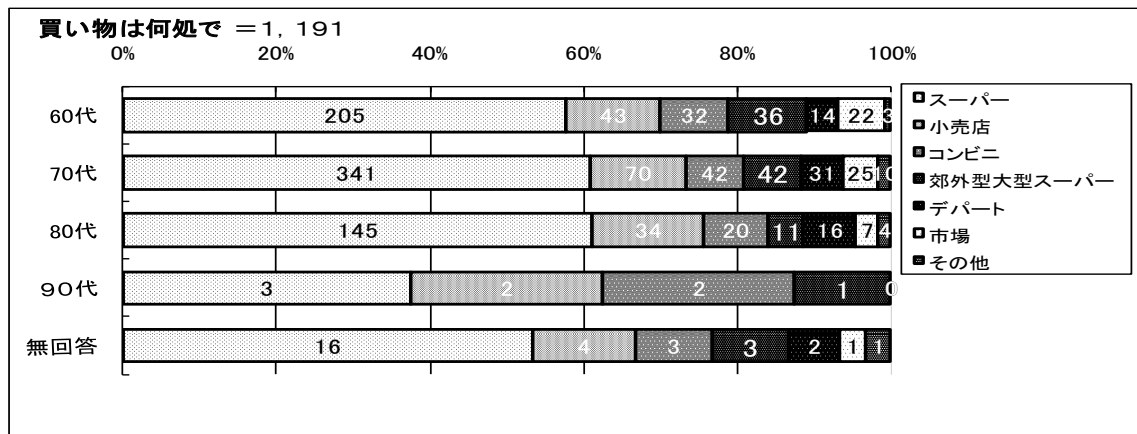
次に多い「ほぼ毎日行く」という人は、60代、70代、80代共にほぼ同じ割合であった。ただ、「月に2回~3回」と答えた人の数は、高齢になると共に増加傾向にある。やはり、外出が困難になるものと考えられる。

「ほぼ毎日行く」と答えた人の中に、「独り暮らしでは、一回の買い物を少量に抑え、エクササイズをかねてなるべく外へ出る機会を作っています」との意見にもあるように、健康維持のためや社会とのつながりを求めて努力している様子もうかがえる。

問2:普段、何処で買い物をしていますか(複数回答可)

[全区:年代別]

	合計	60代	70代	80代	90代	無回答
スーパー	710	205	341	145	3	16
小売店	153	43	70	34	2	4
コンビニ	99	32	42	20	2	3
郊外型大型スーパー	93	36	42	11	1	3
デパート	63	14	31	16	0	2
市場	55	22	25	7	0	1
その他	18	3	10	4	0	1



[全区: 区別]	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区
スーパー	76	59	70	54	61	55
小売店	14	10	19	5	12	10
コンビニ	10	9	7	7	8	7
郊外型大型スーパー	9	9	6	7	9	4
デパート	14	7	5	4	5	11
市場	3	3	9	1	1	3
その他	1	2	5	2	0	2

	清田区	南区	西区	手稲区	合計
スーパー	70	50	149	66	710
小売店	18	7	41	17	153
コンビニ	8	8	21	14	99
郊外型大型スーパー	11	5	23	10	93
デパート	4	5	6	2	63
市場	7	2	19	7	55
その他	2	1	3	0	18

スーパー（生協を含む）と回答した人が、一番多い。次に小売店、そしてコンビニと続く、この傾向は、年代別及び区別にみても、同様の結果であった。

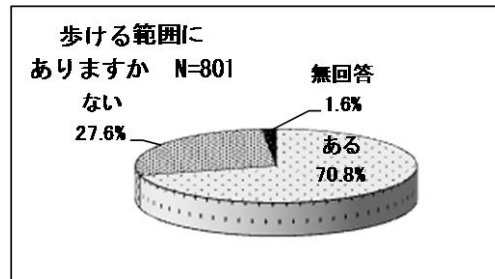
4番目に回答数が多かったのは「郊外型大型スーパー」になっているが、高齢者にとって利用度が低いことが分かった。

やはり、高齢になるほど移動手段等の問題が障害になっていることが、そこから見える。その分、80代、90代は小売店やコンビニを利用しているようだ。

問3: そのお店は、住まいから歩いて行ける範囲にありますか

[全区]

ある	567	70.8%
ない	221	27.6%
無回答	13	1.6%
合計	801	100.0%



[全区: 区別・年代別]

	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区
ある	71	35	58	44	46	49	55
ない	7	26	27	13	17	12	22
無回答	2	0	0	0	4	1	1
	南区	西区	手稲区	60代	70代	80代	90代
ある	24	139	46	154	274	125	2
ない	30	43	24	65	98	48	3
無回答	2	0	3	1	6	3	3

全区では70.8%の人が、「歩いて行ける距離にある」と回答している。

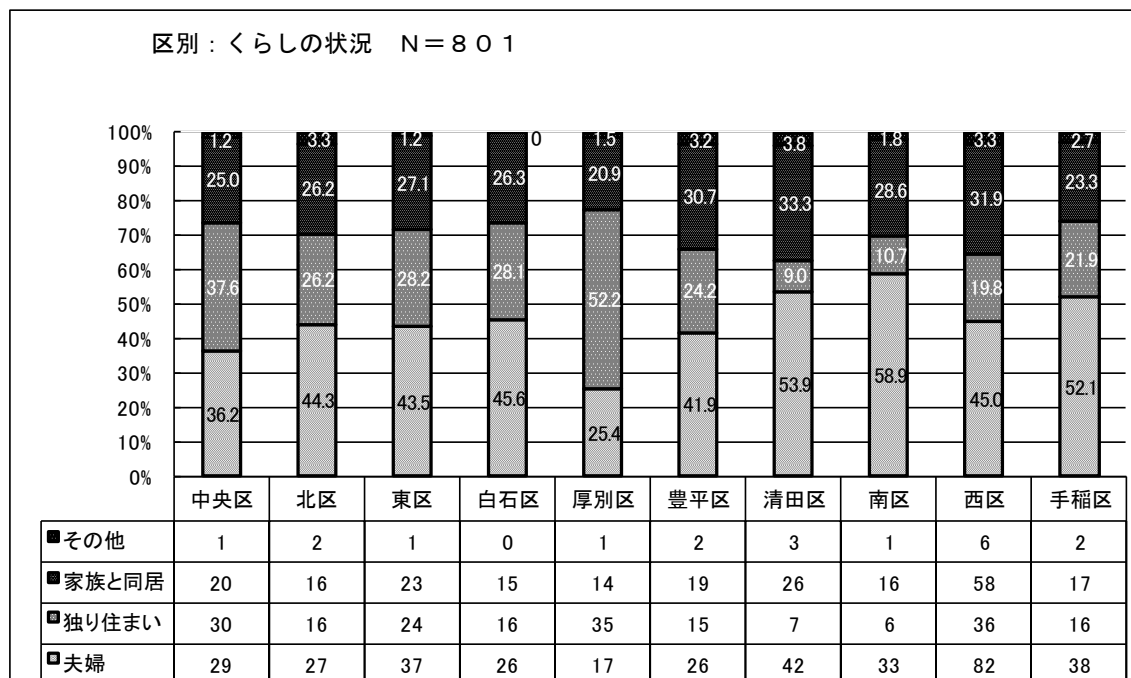
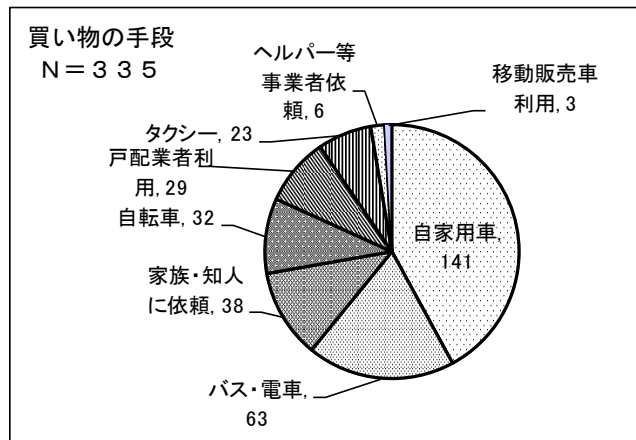
区別で見ると、中央区、豊平区に「歩ける」と答えた人が8割以上であった。

しかし、「歩いていける距離にはない」と答えた人が、3割弱の27.6%もいるということに注目する必要がある。年代別では、より高齢になるほど「歩いていける距離にはない」という人の割合が高くなる。

問4:問3の質問で、「ない」と答えた方におたずねします
 どのような方法で買い物をされますか (複数回答可)

[全区]

自家用車	141
バス・電車	63
家族・知人に依頼	38
自転車	32
戸配業者利用	29
タクシー	23
ヘルパー等事業者依頼	6
移動販売車利用	3
合計	335



「自家用車を利用」と回答した人が一番多かったが、この先、運転が出来なくなる不安感を訴えている意見もあった。次に多いのが、「公共交通機関を利用」とあり、そして、「家族・知人に依頼する」、「戸配業者を利用」と続く。

「公共交通機関」を利用する場合も、意見に、「路線バスの減便、廃止など、高齢者に対して死活問題」と、指摘する人もいる。

また、区別毎に「くらしの状況」を見ると、中心部の中央区と札幌市の副都心と位置付けている厚別区に「独り住まい」の人が多。このことは、百貨店や大型スーパー、専門店などのお店が何軒も存在する地域は、出かけることが苦にならなければ、歩いて買い物が出来、「独り住まい」が可能と考えられる。

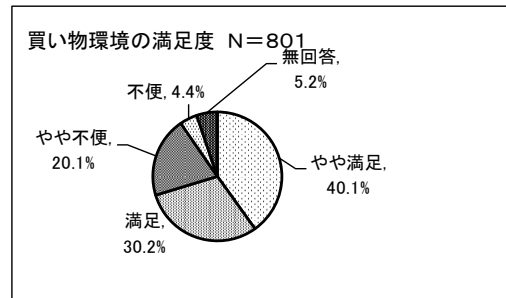
尚、「ヘルパー等業者に依頼」という人が極端に少ない。このことは、介護サービス等の適用が難しいことと関連があるのではないかと考えられる。

問5.すべての方におたずねします。

現在のような買い物環境及びその状況をどう感じていますか。

[全区]

やや満足	321	40.1%
満足	242	30.2%
やや不便	161	20.1%
不便	35	4.4%
無回答	42	5.2%
合計	801	100.0%



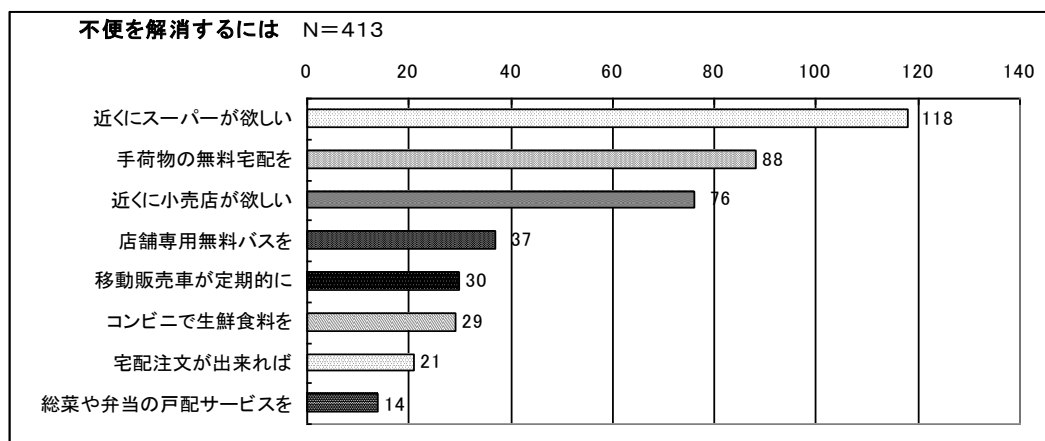
「満足」と「やや満足」を合計すると、70.3%と、現状を肯定的に捉えている人が多い。しかし、「やや不便」と「不便」を合計すると、24.5%と、4人に1人は買い物環境に不便を感じていることが分かった。また、より高齢者にその傾向が強いことも分かる。問3で、27.6%の人が、買い物するのに近くにお店がなく、「歩いていける距離にない」と、答えたことでも分かる。やはり、お店が遠くなっているとか、公共の交通機関も不便だとか、問題点も見える。

問6:問5の質問で「やや不便」、「不便」とお答えした方におたずねします

その不便さを解消するため、あなたが希望し、もしくは望まれることをお答え下さい
(複数回答可)

[全区]

近くにスーパーが欲しい	118
手荷物の無料宅配を	88
近くに小売店が欲しい	76
店舗専用無料バスを	37
移動販売車が定期的に	30
コンビニで生鮮食料を	29
宅配注文が出来れば	21
総菜や弁当の戸配サービスを	14
合計	413



「近くにスーパーが欲しい」が1番多く、また、「近くに小売店が欲しい」という答えが多い、やはり歩いていける距離にお店があることを望んでいると考えられる。

注目すべきは、「手荷物の無料宅配」を望んでいる人が2番目に多いことである。このことは、買い物に行くと、帰りは当然のように商品を持ち帰ることになるが、手には重く、高齢者にとって容易ではない。また、積雪の冬道の場合はより厳しい状況におかれる。運転の出来ない高齢者に、「店舗専用の無料バス」を望む声もある。

近年、話題になっている「移動販売車が定期的に廻って欲しい」という希望も多い。

問7: その他、思いついたところをお書きください

(お寄せいただいたご意見、80件の中から抜粋、原文のまま掲載しました)

- ・魚・野菜の量が多いので小分けにしていきたい。
- ・年齢と共に、大型スーパーは物を探すのがたいへんです。
- ・近くても定価が高い物を購入する場合があります。
- ・買い物の配達は無料にしてほしい。
- ・自宅を出ることを基本に考え施策してほしい。昔の市場が会話もありよかった。
- ・独り暮らしでは、一回の買い物を少量に抑え、エクササイズをかねてなるべく外へ出る機会を作っています。
- ・自転車や車の利用ができるうちはよいが、歩いてだけなら問題はある。(高齢化では買い物難民化するとおもう) その他 宅配も利用している。重量のあるものは便利。
- ・路線バスの減便、廃止等、高齢者に対して死活問題です。更に生活物資購入のため、車両を運転しなければならず事故等についても心配である。
- ・現在は健康で自分の足で買い物に出かけることが出来ますが、近い将来身体状況が悪くなったら戸配するか別途考えなくてはなりません。自分の目で見て確認できず届けられるには不安もあり希望通りの商品の購入も不可能になるのではと不安になります。今後個人対応の方法・行政対応など高齢者の増加に伴う対策に積極的に取り組んで欲しいと切望します。
- ・歩いて5分ほどのスーパーですが、それでも高齢者にとっては、手に荷物を持っては楽な事ではありません。それが冬道となれば尚更の事です。昔ならご近所に頼めた事もお付き合いの少ない時代では無理なのです。手助けの部分で地域が出来る事を行政が指導援助などの工夫があっても良いのでは・・・

★ まとめ

札幌市の人口、特に65歳以上の高齢者は、平成23年1月1日現在(住民基本台帳による)385,630人となっていて、全人口に占める割合は20.3%である。5年前の国勢調査時(平成17年10月)では、342,600人で18.2%を占めていた。今後5年後、10年後を推定すると加速度的に増加すると考えられる。

高齢化・核家族化が進んでいる現在、高齢者が「買い物弱者」とならざるを得ない条件は内在していると考えるのが妥当であろう。そのため、高齢者が今どのような買い物環境におかれているか、現状を把握することは極めて重要であり、各関係機関へ施策等を要望する際の出発点でもある。

設問1で、買い物に出かける回数を訊ねたところ「週1回から2回」と「ほぼ毎日」買い物に出かけるとの回答を合わせると、76.9%になった。意見の中に掲載したように、高齢者にとって一度に多くの荷物を運ぶことは困難で、少しずつ短いスタンスで買い物をする生活が見えてくる。「歩いていけない距離にお店がある場合」に使われる手段は「自家用車」が圧倒的に多数であり、「公共交通機関」の充実が望まれる。今後年齢を重ねると自家用車の運転を諦めざるを得ないことに不安を覚える人も多い。

設問5で、現在のような買い物環境にどう感じているかを尋ねたところ、「やや不便」と「不便」と答えた人が24.5%に上る、4人に1人は買い物環境に不便を感じていることが分かる。「不便を感じている」とした人達から、「手荷物の無料宅配」や「店舗専用の無料バス」の形でサービス提供を望む声強い。

販売店側にも販売方法の中に、消費者ニーズとしてのサービスの提供の広範囲化を視野に入れていただきたい。

札幌市は冬期間積雪寒冷地域で、高齢者にとって冬道の歩行の困難さを強く感じていると思われる。これらの点を考えると、早急に問題点を整理し、札幌市と民間企業や市民が、特に地域住民と、横の連携を図り高齢者に支援の手を差し伸べることが重要だと考えるに至った。

最後に、今回の調査で、福祉法人札幌市社会福祉協議会、各区町内会、協会会員及び事務局職員の皆様に、多大なる協力をいただき調査が出来ましたことを紙面をかりて感謝申し上げます。ありがとうございました。

〈今回のアンケート書式〉

アンケート用紙 [区]

☆皆様におたずねします。○をつけて下さい。 男 女

☆皆様の年代は。ア. 60代 イ. 70代 ウ. 80代 エ. 90代

☆皆様の暮らしの状況を教えてください。

ア. 夫婦 イ. 一人住まい ウ. 家族（兄妹も含む）と同居
エ. その他（具体的に書いて下さい）

☆ここからは、日常生活の買い物に関する質問です。
あてはまるものに○をつけてお答え下さい。

1. 毎月、買い物はどのくらい行きますか。
ア. ほぼ毎日 イ. 週1回から2回 ウ. 月2回から3回
エ. 月1回 オ. その他（ 回）

2. 普段、どこで買い物をしていますか。（複数回答可）
ア. 小売店（青果店・鮮魚店・肉屋など専門店も含む）
イ. スーパー（生協も含む） ウ. 市場 エ. コンビニ
オ. デパート カ. 郊外型大型スーパー
キ. その他（具体的に： ）

3. そのお店は、住まいから歩いて行ける範囲にありますか。
ア. ある イ. ない

4. 上の質問で、「ない」と、お答えした方におたずねします。
どのような方法で買い物されますか。（複数回答可）
ア. 自転車 イ. タクシー ウ. 公共のバスや電車
エ. 家用自動車（運転の依頼も含む） オ. 家族・知人に
お願する カ. ヘルパーなど支援事業者を利用する
キ. 移動販売車を利用する ク. 戸配業者を利用する（裏へ続く）

5. すべての方におたずねします。
現在のようない買い物環境及びその状況をどう感じていますか。
ア. 満足 イ. やや満足 ウ. やや不便 エ. 不便

6. 上の質問で「やや不便」、「不便」とお答えした方におたずね
します。その不便さを解消するため、あなたが希望、もしくは望まれる
ことをお答えください。（複数回答可）
ア. 近くに小売店が欲しい
イ. 近くにスーパーが欲しい
ウ. 移動販売車が定期的に廻って欲しい
エ. 自宅近くまで店舗専用の無料循環バスが欲しい
オ. コンビニで生鮮食料品を扱って欲しい
カ. 操作が簡単な携帯電話で宅配の注文が出来るとよい
キ. 惣菜や弁当を戸配サービスで出来るようにしてほしい
ク. 手荷物（重いもの）の宅配サービスの無料化を希望
ケ. その他（思いついたこと： ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
社団法人 札幌消費者協会
調査部：「高齢者の買い物環境に関する意識調査」
プロジェクトチーム

[調査担当]

「札幌市における高齢者の買い物環境に関する意識調査」プロジェクトチーム

チーフ 北上 尊司（調査部部長）
富永 和枝（調査部部員）
高橋美代子（教育部部員）
小河原 均（Men's 倶楽部員）
小野 義勝（Men's 倶楽部員）
星原 智江（事務局員）

<調査に関する問合せ先>



社団法人 札幌消費者協会 調査部
部長 北上 尊司
事務局代表電話 011-728-8300